

【令和7年度支援機器普及促進事業】

令和5・6年度障害者自立支援機器等開発促進事業
簡易型電動車椅子でサッカーをするためのフットガードの
開発した「ファンガード」及び「車いすファンサッカー」
の普及活動

横浜市リハビリテーション事業団
横浜市総合リハビリテーションセンター

実施機関の体制・組織の特徴

横浜市におけるリハビリテーションの中核機関として、リハビリテーション施策を牽引する。

リハビリテーションの先進的な調査・研究・開発事業に取り組み、その成果の普及を図る。

リハビリテーションに関する臨床の実施を通して、新しい福祉用具の開発・実用化を目指す。民間企業や大学等と福祉用具の共同開発や臨床評価を実施している。

在宅生活などの実生活における環境調整等のニーズに関して、臨床工学サービスを行っている。

地域の関連機関との連携（検討）状況

「ファンガード」「車いすファンサッカー」は以下の連携を実施した。

展示会・遊び場などイベントへの出展

①イベント主催者との連携

- ・公益財団法人テクノエイド協会
- ・一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会
- ・日本車いすファンサッカー協会
- ・キッズフェスタ札幌 主催BEAM'S
- ・familink*（重症心身障害児者の遊び場企画運営）
- ・関西キッズ機器展実行委員会

②イベントの準備

ファンガード、簡易型電動車椅子、車椅子、ボール、広報什器等

- ・製造/販売会社：矢崎化工株式会社、アビリティーズ・ケアネット株式会社

今年度の取り組み状況

①インクルーシブフットボールフェスタ神奈川2025



日時：2025年9月23日（火）祝日 13：30～16：00

場所：神奈川県立スポーツセンター（神奈川県藤沢市善行7-1-2）

主催：一般社団法人神奈川県サッカー協会

参加費：無料（事前申込制）

出展内容：横浜市の電動車椅子サッカーチームと一緒に出展。

- ・車いすファンサッカー（ファンガード+車椅子）4台 ボール4個



今年度の取り組み状況

②ニーズ・シーズマッチング地域交流会ATAサテライト静岡



日時：2025年10月4日（土）10：30～16：00

場所：静岡市産学交流センター6階プレゼンルーム

連携：金田監督（電動車椅子サッカー横浜連絡会 代表）
矢崎化工（株）、ヤマハ発動機（株）

出展内容：横浜市の電動車椅子サッカーチームと一緒に出展。

- ・車いすファンサッカー（ファンガード+車椅子）2台



今年度の取り組み状況

③ニーズシーズマッチング地域交流会ATAサテライト静岡



日時：2025年10月4日（土）10：30～16：00

場所：静岡市産学交流センター6階プレゼンルーム

連携：金田監督（電動車椅子サッカー横浜連絡会 代表）
矢崎化工（株）、ヤマハ発動機（株）

出展内容：横浜市の電動車椅子サッカーチームと一緒に出展。

- ・車いすファンサッカー（ファンガード+車椅子）4台 ボール2個

障害がある子どもたちをサポート 福祉用具
展示会が札幌で



（写真：テレビ北海道）



今年度の取り組み状況

④第9回パワーチェアフットボールチャンピオンシップジャパン



日時：2025年11月1日（土）2日（日）

場所：静岡エコパアリーナ（静岡県袋井市）

目的：日本電動車椅子サッカー協会の会長、事務局長ら関係者と挨拶をして今後の連携のビジョンの意見交換と情報交換を行う。



今年度の取り組み状況

⑤「遊Park」Familink*（重症心身障害児者の遊び場）



日時：11月2日（日）10:00～15:00

場所：千葉県立船橋夏見特別支援学校（船橋市夏見台5-6-1）

対象：重症心身障害児者

現地の担当ボランティアスタッフ：PT・OT 6名

道具：車いす・バギー3台、ファンガード4台、プラガード4台、ボール2個、
ゴールポストコーン4個

体験内容：30分8クール 1クール3～4名

- ・ファンガード着脱時間5～10分
- ・体験（スラローム、シュート練習、ドリブルなど）15分



今年度の取り組み状況

⑥第6回関西キッズ機器展



特別企画スペース：車いすファンサッカ一体験

日時：2025年11月29～30日（土・日）

場所：ATCエイジレスセンター

関西ボランティアスタッフ：PT・OT 2名

道具：車いす2台、ファンガード2台、ボール1個、

体験内容：

- ・ファンガード装着
- ・体験（スラローム、シュート練習、ドリブルなど）



課題

1. 参加者の理解促進・利用イメージ醸成に時間要する点

イベント参加者はファンガードを初めて知るケースが多く、製品特性や利用手順等の説明が不可欠であった。体験による理解促進は有効である一方、ファンガード、車いす、説明者の確保が必要。

2. 情報発信・認知拡大の不足

各地の障害者サッカー団体・福祉機器関連団体において、ファンガードの情報が十分に共有されていない状況が確認された。製品活用の事例共有や導入メリットの提示が今後必要である。

3. 地域による格差

地域ごとに障害者サッカーの活動水準や連携ネットワークに差があり、地域の実情に合わせた導入方法を検討することが重要。

実施方策

1. 体験機会の継続的提供と説明体制の強化

製造・販売事業者と連携し、展示・試乗を中心とした広報活動を継続する。説明者の育成、利用マニュアルや動画等の活用により、参加者の理解促進を図る。

2. 普及に向けた情報発信・啓発活動の強化

イベント参加後に製造・販売事業者による媒体露出や情報発信を行い、認知向上に努める。

3. 地域ネットワークの活用と連携先の明確化

障害者サッカー団体等との関係構築を進め、地域の関係者が主体となって導入を進められる体制の整備を図る。